



北條時頼一代記

^13  
4467  
6



へ13  
4467  
6

北條時頼紀表之六

目錄

- ① ねぼりし時頼の由は律乃事
- ② ねぼりし時頼の由は律乃事
- ③ ねぼりし時頼の由は律乃事
- ④ ねぼりし時頼の由は律乃事
- ⑤ ねぼりし時頼の由は律乃事
- ⑥ ねぼりし時頼の由は律乃事

⑤ 是乃由之氏小八良新編乃半

付書紙在總後とあり半

⑥ 此身不此あり一乃半

⑦ 教生林あり教生の教あり

⑧ 日色と人物とありとひり半

付 安永海乃半

水多河形記書之也

① 河形乃河形也此は河形乃河形也

水多河形乃半

建長八年三月三日陸奥のついで河形乃河形也

して河形乃河形也此は河形乃河形也

目録元わつて河形乃河形也此は河形乃河形也

ち河形乃河形也此は河形乃河形也

まひはな是乃河形乃河形也此は河形乃河形也

も河形乃河形也此は河形乃河形也

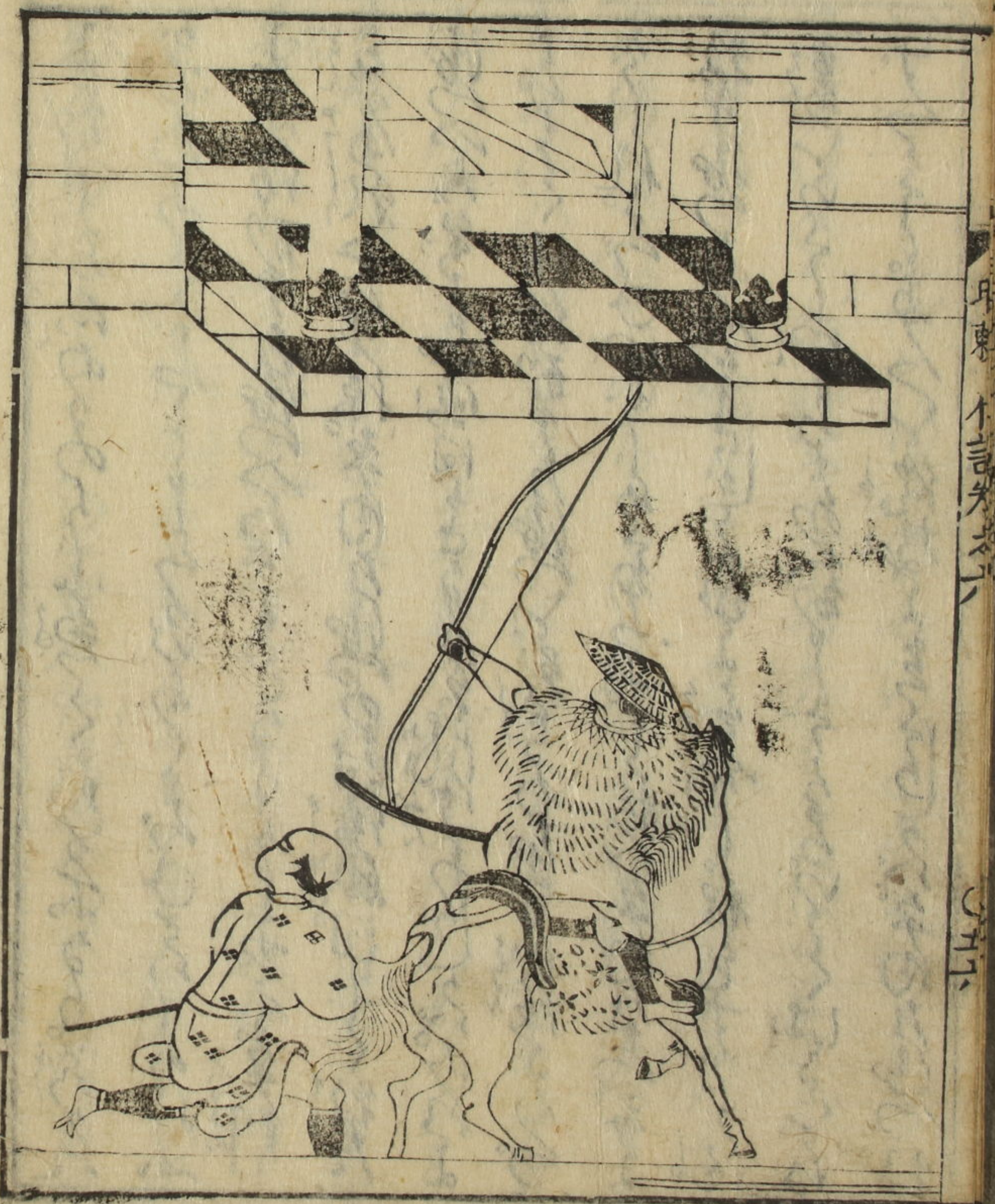
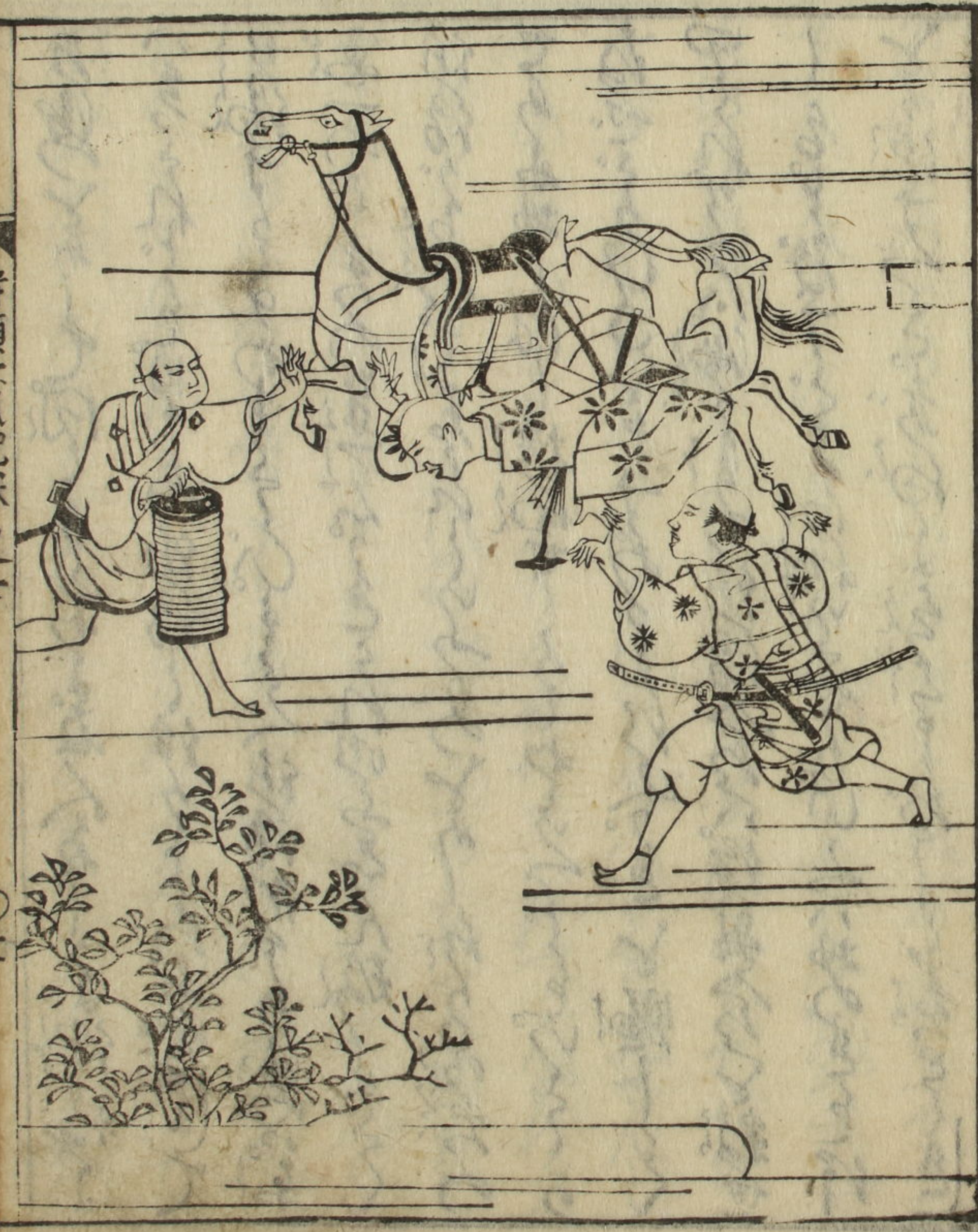
あつて河形乃河形也此は河形乃河形也











ち海とあして回るるあまな人あまの御孫は  
 八まそれども日ごとく船橋に降りてはあまはして  
 い海するものあまの御孫は船橋のあまの御孫  
 あまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 せあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 あまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 甲それらうの海がまの船橋のあまの御孫のあまの御孫  
 一もあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 とあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫

ぐげもあつらひのあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 りらひそれらうの海がまの船橋のあまの御孫のあまの御孫  
 ね船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 とあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 ねひあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 かりらひのあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 あまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 ままの船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 ままの船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 ままの船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫  
 ままの船橋のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫のあまの御孫





の海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...  
くまの海くまがれ... 舟の図録が中...

らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...  
らぬ中... 舟の図録が中...















あるの地をんがうしてとわさしむてし  
るくしごうつこのわよ固きまを。まをの町を  
くともくしごうつこのわよ固きまを。まをの町を  
りよあすあつららるる。まをの町を  
よてりあつららるる。まをの町を  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
あまの町を。まをの町を。まをの町を。

はなれりまのそまおちりし。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。  
まをの町を。まをの町を。まをの町を。



ちあふおのぼりゆゆくらんをそづぶがをきん  
 まんぐらよ無折しぬひろあつとさねむらじ  
 くちぐらむね一人鶴の林よすがりくゆらよ  
 きらんらゆゆとまのりまてちもとゆらよ  
 まつくとあや中まひにわんちまのら  
 半。ち地抄のめあさうよむせり。さくぬくよ  
 あぐわんせんのをさよひんしゆりら  
 何してはよらうらら。まねおゆら  
 けんぞとだらよまてあくとさくま  
 まらさあくとら。らぬも風よらら。ま

新白<sup>トシロ</sup>よ補<sup>ホ</sup>任<sup>ニ</sup>とさく。まねらあよ  
 りあひらら。な海<sup>ウミ</sup>補<sup>ホ</sup>任<sup>ニ</sup>とひんせん  
 よゆらうとまひま行<sup>ユク</sup>すよ。まか  
 店<sup>タナ</sup>あひらひ中<sup>ナカ</sup>んと。ま  
 ねん。くしくのまあまはゆせく  
 とまらるまらつる。まねと  
 色<sup>イロ</sup>ゆらうまひらひま  
 るげまらうまひらひま  
 新。まらまらまらまら  
 げがまらまらまらまら

うきやうとさあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
りんぼう。能くおのたふしにして。能くはよめらるりまゝ  
らん。と。さあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
補佐とまう。さあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
の理とて。さあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
理とまう。さあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
のをさあおるなりとて。能くはよめらるりまゝ

五津のあらぬが新編付ま紙左邊  
とあるなりとて。能くはよめらるりまゝ  
あつめ津のあらぬが新編付ま紙左邊



とあるなりとて

あつめ津







一 衣少袖 一 合少袖

一 合二少袖

一 一少袖

五月乃分

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一合少袖

一 一少袖

一 一合少袖  
一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

六月乃分

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

七月乃分

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖

一 一少袖



一 西衣 三

一 西衣 二

一 今本 二 具

八月乃分

一 三 生西衣

一 西衣

一 生西少袖

一 白西袴

一 生西衣

一 合西少袖 三

一 西帷 二

一 西衣 二

一 西衣

九月乃分

一 西少袴 生二倍織也

一 西衣 二 八二倍織也

一 西單生衣

一 西少袖

一 西袴

一 二 生西衣

一 西少袖 五

一 西衣 三

十月乃分

一 西少袴 三 倍織也

一 八西衣 二 三倍織也

一 西單 二

一 西少袖

一 西袴

一 三西衣

一 西衣

一 西少袖

一 西衣

一 西少袖 二

一 西衣 二



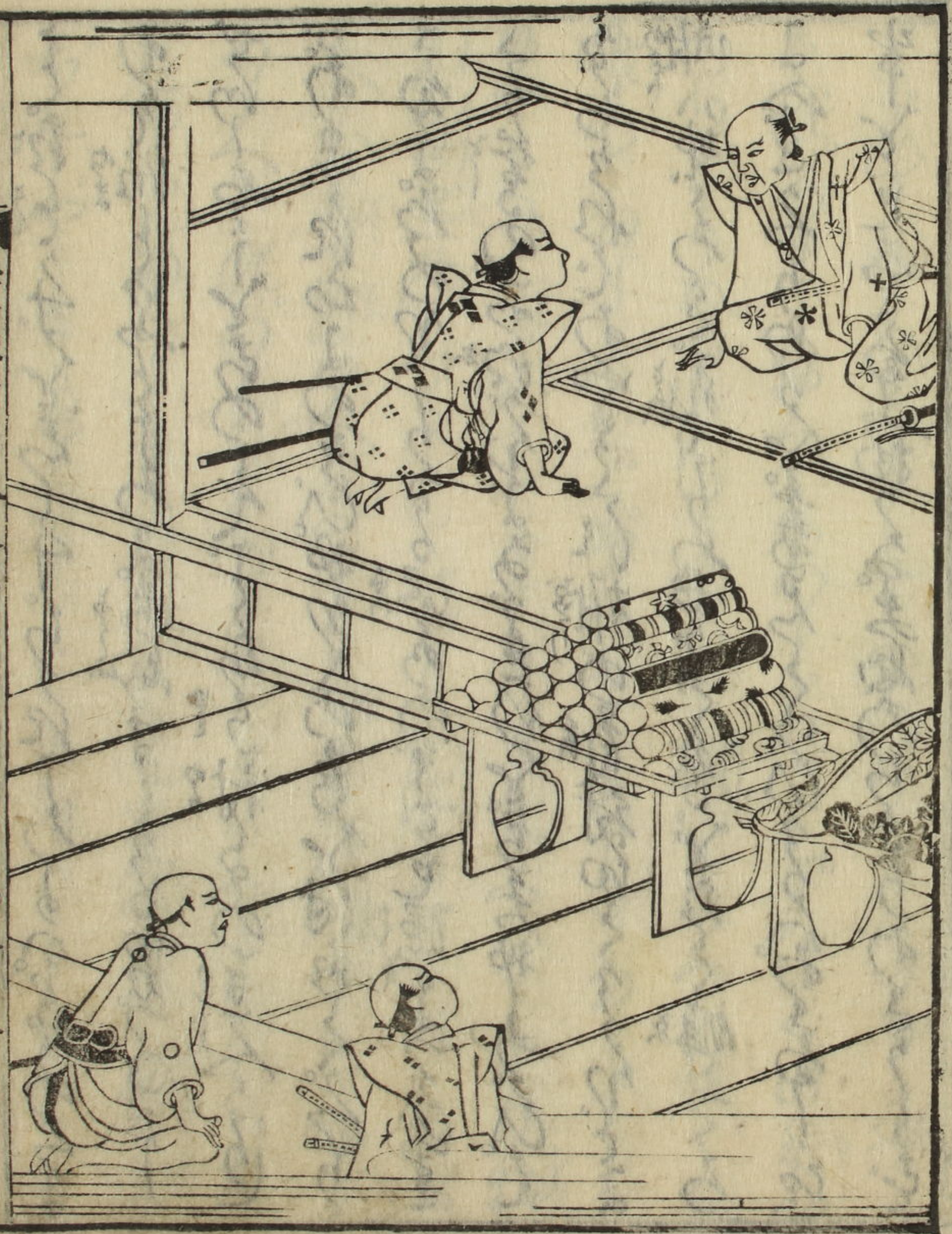


らうしんし文まきとわくぐあういあう  
文あうく。

ち秋目并三まきほなる教まらういあう  
名魚教魚のさうひ金魚教の業今とわりのする  
半あまのよあうかまらうる人偏まはじ  
まらうく花業のふあうくはる。教まらういあう  
半あまのよあうかまらうる人偏まはじ  
式柄あうるり。あうまらうすあうら件の目くあ  
個とほ海まはらう。ほらく柄柄とらあまはじ  
らう。目とらほらうけ割くあうらあはじ

らうしんし文まきとわくぐあういあう  
文あうく。  
ち秋目并三まきほなる教まらういあう  
名魚教魚のさうひ金魚教の業今とわりのする  
半あまのよあうかまらうる人偏まはじ  
まらうく花業のふあうくはる。教まらういあう  
半あまのよあうかまらうる人偏まはじ  
式柄あうるり。あうまらうすあうら件の目くあ  
個とほ海まはらう。ほらく柄柄とらあまはじ  
らう。目とらほらうけ割くあうらあはじ

心をなほりては、  
 かへては、  
 母を、  
 花の、  
 のが、  
 まよ、  
 みの、  
 うら、  
 や、  
 むし、







心持しく懐く是よりわらわらしくおのころし  
 らだよけりとは人の母なりとらるるを思ふ  
 人にしてわらわらゆげらるのいふまゝに  
 心よまげく懐くはゆらしていつしやまじ  
 やのこゝろとせむしむる冠をむくまの  
 そねくどく人ありわらわらとづる懐くは  
 のぶらむとあひらびらむとあるし  
 うの精せんごいの申りしむりて  
 くららとくしらのあまよのせつと  
 そらふこのあつれとらむらりの風情と

さらぬとほむししくとあまの首と持あり  
 て。あつれとの思と新とぬらとけり  
 うあひの持やとあけらるる  
 せらととととあつれとの名。新  
 めらあひのつらとくしむる  
 よらあひのつらとくしむる  
 ちやらら乃も念。新。新。乃と  
 まらあひのつらとくしむる  
 とつらとせんとも。持ありわらわら  
 そあつれとらら。乃も念。新。新。乃と









